

静原小 学校通信

8号

平成28年11月1日
京都市立静原小学校
校長 林 久 徳

身近に生きている古典

校長 林 久徳

「なんかふろしきのかばんと違って小さいから運びやすい」「かばんは決まった大きさしか入らないけど、ふろしきは広げられるから便利です」「ふろしきの方が荷物が安定しています」『日本のこころ』という主題で道徳の学習をした時の一コマ。子どもたちにとって、使うことが少なくなっている風呂敷を例にとって我が国に伝わる文化や伝統の良さを知り、それを大切にしていこうとする心情を育てることをねらいとした学習を行いました。

11月1日は「古典の日」です。古典の日に関する法律を見てみると、

(目的)

第一条 この法律は、古典が、我が国の文化において重要な位置を占め、優れた価値を有していることに鑑み、古典の日を設けること等により、様々な場において、国民が古典に親しむことを促し、その心のよりどころとして古典を広く根づかせ、もって心豊かな国民生活及び文化的で活力ある社会の実現に寄与することを目的とする。

(定義)

第二条 この法律において「古典」とは、文学、音楽、美術、演劇、伝統芸能、演芸、生活文化その他の文化芸術、学術又は思想の分野における古来の文化的所産であって、我が国において創造され、又は継承され、国民に多くの恵沢をもたらすものとして、優れた価値を有すると認められるに至ったものをいう。

と書かれています。始めに紹介した風呂敷の利用なども日本の生活文化を大切に取る取組の一つと言えます。本校では、地域の方や多くのゲストティーチャーにお世話になり、「古典」を大切に取る取組を行っています。代表的な伝承太鼓の演奏だけでなく、生け花やお茶、しめ縄作りや餅つき、邦楽鑑賞など、楽しく古典に親しむ機会を多くとっています。「古典」の取組を通して、日本を、静原を誇りに思い、大切にできる人に育ってほしいと願っています。



いもほり



地域の方にお世話になりまして、まわりの草刈りや掘り方の注意事項についての説明などしていただき、いもほりがスタートしました。いもほりは、わくわくします。しかし、それに至るまでの作業が必要です。今年は3、4年生が苗の植えたての頃の水やりや草ひきをしました。どの学年の児童も掘るのは楽しみにして取り組みます。折れないように丁寧に、手で掘りました。いもほりの後の、芋づる処理もしています。葉っぱは、うさぎのエサになりました。有効活用を進んでやっていきます。



収穫の秋、稲刈り～脱穀



籾を稲から外します。地域の方に昔の道具の使い方を教えていただき、活動しました。一度にたくさんはさむと強い力が必要となり、あまりうまく出来ません。少ない目にして、稲藁を下向きに引っ張ります。籾が残らないように、何度も通しながら、一束終えました。籾はずしを機械ならあつという間にやっていきます。



昨年よりも、たくさん取れたようです。

しずはうすで和太鼓演奏



秋空のもと、太鼓演奏を披露しました。地域のたくさんの方々が見に来ておられました。練習を続け、覚えるのが目標だった児童は、かっこよく演奏できることを目標にしてレベルアップしています。しっかり手を上にあげることや力づよくたたき姿勢から、いい演奏をしようという気持ちも伝わってきます。



バレーボール交流会

バレーボールの部活動交流会に参加しました。少し緊張していましたが、練習の成果を発揮する場面があり、一生懸命頑張りました。バレーボールの上達を感じられる交流会でした。レシーブが拾えるようになったとか、サーブが入るようになったとか、自分のコートに帰ってきたボールに必ず反応するようになったとか、具体的に分かりました。また、次の課題として、具体的にどのようにできるようにしたいのか、そのためにどうすればいいのか考えて練習していけるものと思います。

